

幼兒教育側面觀

東京女子高等師範
學校附屬小學校

田代順之

幼稚園は小都市よりも大都市に施設經營され、入園幼兒の家庭は財的に裕福であり、其の子女の教育には並ならぬ關心を持ち熱心であるを見なければならぬ。勿論中には家庭の體面上幼稚園へ入れて置くまいやうな、無雜作なものもあるであらうし、幼稚園へさへ入れて置けば幼稚園で適當に教育して呉れるだらう位に片付けてゐる家庭もあるに相違ない。

けれども幼稚園は小學校と異つて、多く都市の上層家庭の子女教育所であるを見て、強ち偏見ではあるまい。

かく現在の幼稚園は都市の裕福なる家庭の幼兒を教育するこゝに特殊を持つてゐるから、稍々もするこゝ其の特殊性が一般小學校教育との連絡を阻害する事なきにしもあらずである。此の點幼稚園にしても充分警戒する必要があらうと思ふ。

其の一つはこもするこ技巧的な幼兒にして、了ふ虞がある。即ち家庭では幼稚園へやつてあるのだから、嘸や他の子供と違つて、慍口になるだらうと考へる。そして其の期待は表面的の結果にのみよつて判断し満足しようとする。何も作れるやうになつた。之も拵へる。こんな遊戯も覺た。唱歌も幾つ歌へるこいつた調子。若しさうした觀面な結果がなければ、家庭は不服を言ふ。従つて幼稚園でも家庭との連絡上自然それに迎合するやうな傾向に陥つて來る。端的に言ふならば、家庭は幼

兒可愛きの餘り之を玩具視せんとする。かうしてチャホヤミ育てられた子供はごうも落付がなく、根氣ミか我慢ミかいふ方面に缺陷を現し、習は遂に性ミなつて禍を將來に持越す事になる。

○

感官の練磨ミいふことは幼兒の教育上極めて重要な事であるから、教育方法はよろしく此の點に基礎を置くべきで、作る事、歌ふ事、遊戯する事等が幼稚園教育法の大部を占むべきは之又必然の事であらねばならぬ。

幼兒は一瞬時も靜止が出来ないといふのは伸びんミする本然の要求の發現であつて、吾々は之を積極的に教育的に満足せしむべき準備ミ指導法を考へて置く事こそ幼兒教育の本道に精進する所以であらう。

唯此所に戒しむべきは幼兒をして大人の愛玩的満足の犠牲たらしめる事であり、結果主義に墮する指導法である事を銘記したい。如上の意味に於ける教師の不用意な助力は徒らに幼兒の獨立性を損する以外には何物もない。

○

或人から「子供を幼稚園へ入れる事は考へ物だといふ事ですがごういふものでせうか」といふ質問を受けた事がある。其の時私は「子供の止むに止まれぬ活動を積極的に善導するといふ事は極めて教育的であり、有意義であるから然るべき幼稚園を選択してお入れになつたらよいでせう。殊に一人娘でお母様、お祖母様の遊び相手では子供ミしての全き生活が期し得られないでせう。子供は子供の世界に生活させるといふ考へ方が肝腎だと思ひます」と言つた事がある。

幼兒は幼兒としての社會生活をさせ、其の間に社會性を陶冶するといふ事が大切である。多角形的な幼兒性の接觸はやがて幼兒ながらの社會性を醸成せしめる所以であつて、大人ミの接觸にては到底得られざる貴い或物が獲得されるのである。

獨立した社會人を教育しやうとする其の基礎態度養成の幼兒期に於て温床栽培的な他律的な教育では到底其の目的は達し得られないのである。幼稚園や小學校の低學年に於ては専ら生活態度の養成を根本義としなければならぬのも其所に理由が存するのである。

併し此所で吾等の注意を怠つてはならない事は、幼兒を集めて集團生活をさせた處で、集團生活を放任に近き状態に置いたのでは、決して幼兒の社會性が陶冶されるものでないといふ事である。幼兒には反省とか自制とかいふ徳は未だ極めて未發達の状態にあつて、適當の指導者なしでは到底初期の成績は擧げ難い。殊に集團の中に特殊な亂暴癖を有する子供があり、たまくそれが行動を擅になし得るが如き状態に置かれたやうな場合、其の子供の性癖は益々増長こそすれ矯められるといふやうな機會がないのみならず、それが他兒の生活態度にまで影響を及ぼし、其の集團生活は全く破壊に導かれ、集團中の各兒は伸び得べき良質をも滅却の破目に墜されるのである。

吾人小學校に於て幼稚園教育に要望せんとするところは決して智的方面ではない、團體生活の態度である。幼稚園の教育を受けて來た子供の態度は、幼稚園の教育を受けない兒童に比べて劃然と優つてゐる。かく言つたからして現在の幼兒教育がさうでないといふのではなく、大いに成績の見るべきものゝある事は申す迄もないが、蛇足を附け加へて一層の努力を希望して止まない次第である。

○

都市の子供の教育上大いに重要視しなければならない事は、もつと脚を丈夫にするといふ事である。同じ都市の子供でも上流家庭の子供に層一層其の必要を痛感するものである。かつて私は尋一新入の父兄にかう言つた事がある。さうも都會の子供は足が弱くて困る。中には足が未だ地について居ないと思はれるやうな者さへある。もつと足を丈夫に

したい考へであるから、御家庭でも是非此の意を含んで御協力願ひ度い、脚が弱いといふ事は交通機關の發達した東京市なきに於て殊に然りである。つまり脚が弱いといふ事はこりもなほさず、體力が貧弱であるといふ事であり。體力の貧弱は何をやらせても馬力が繼續しないから其の遂行が思ふやうに行かない。換言すれば根氣が續かない。根氣が續かない子供はさうもしつかりした作業が出来ないので學業成績の進歩もはかばかしくない。之は教育上忽諸に附すべからざる重大問題であつて、殊に幼児の教育上知識を授けるなきといふ事は三次四次的な事であつて、養護、訓練を第一義としなければならぬ事は申す迄もない明瞭な事である。

子供の體力を養ふといつても體質其のものに支配される部分が多い事勿論であるが、併し其の子供自身の最善な體力を養ふやう考慮すべきは極めて緊要事に屬する。而して體力養成の具體的方法としては何といつても脚を丈夫にするといふ事に勝つた方法はない。田舎の子供が都會の子供より馬力があるといふ事は、環境其のものが健脚ならざるを得ない状態にあるからである。即ちそれは如何なる場合でも常に脚を使用しなければならぬからである。然るに都會に於てはさうしても兒童の活動範圍が狹隘で脚を使用する機會に乏しい。のみならず交通の發達した大都市になるこ一にも乗物二にも乗物といふ工合に乗物ばかりを使用してゐるから、肝腎な脚を鍛鍊する機會が殆ど與へられない。

此の點子供の養護上最も憂慮に堪へない所であつて、都市に於ける幼児の教育上此の缺陷を補ひ、體力の向上を計るべく、特別の考慮が拂はれなければならない。教師最善の考慮、努力も尙田舎の自然に及ばない事遠いものがあらうが、それは止むを得ない。兎に角日に日に健脚教育を念頭に置いて最善の努力を傾注されん事を望む。

然るに現在の幼稚園教育の實状を見るにうたゝ寒心に堪へないものがありはすまいか。こいふのは幼稚園での幼児の生活は、猫の額のやうな庭でブランコ乗りに滑り臺滑り、それに砂場の砂いぢり。屋内でも積木や輪投げ遊び、さては手工

や圖畫がある。まるで脚を鍛錬する機會なき與へられやしない。之でござうして幼児の體力が養はれやう？。體力をいやが上にも貧弱ならしめる結果にはなるまいか。幼児教育の任に當るものゝ猛省を促して止まない。

一にも健脚教育、二にも健脚教育でありたい事を切望するものである。

○

次には神經質の子供が多いといふ事に關してあるが、都會は自然刺戟が多く、環境其のものが子供を神經質にする。或程度まで仕方がない事でもあり、又或程度迄神經質となつて敏捷でない生活に支障が生ずるさへも考へられる。

けれどもそれが必要の度を越して所謂神經過敏の域に達してゐるものが極めて多いやうに見受ける。之では身體の發達に悪影響を及ぼさざるを得ない。然るに幼稚園に於ける教育の實際が果して此の神經過敏を矯正するやうな施設經營に苦心をしてゐるかどうか問題である。若し多くの幼稚園が前項に於て述べた様な生活を幼児にさせてゐたか假定するならば、それは神經過敏の矯正どころではない。却つて神經過敏幼児を養成するやうな結果を招來する事になる。

此の點前項同様吾人の最も憂ふる所であつて幼児教育關係者に再思三考の熟慮を願ひたい。

それにしても其の方法は餘り技巧的な遊びを避けて刺戟の削減を計り、自然に親しましめるに如くはないやうに思ふ。私の言ふ健脚教育が此處でも極めて有意義に實踐される事になりはしまいか。

神經過敏の子供は反應は敏捷だかどうも落ちつきが足りなく、作業の遂行力に乏しい。そのため底力のある子供はなり難い。私はごちらかご申せば、寧ろ少し位反應が遅くともドツシリした落付のある、底力のある子供を要望する。さうした子供の將來が頼母しい。

之を要するに幼児教育では

第一 感官の錬磨がいふやうなことも大切には相違ないが。何をおいても養護第一で行け、馬力のある子供を養ふことを第一義とせよ。さすれば相關的に神經過敏も減少することになる。それにはなるべく自然の廣い庭を利用して健脚教育を實施することが一番望ましい事であるのである。

第二 幼稚園の教育を受けて來た子供はさうでない子供に比べて團體生活の訓練が良く出來てゐるこいふ事でありたい。

こいふ此の二つが私の側面觀の結論である。